

会 議 録

1. 会議の名称 令和4年度第1回協働推進委員会
2. 開催日時 令和4年10月26日（水）19時00分～21時00分
3. 開催場所 熊取町役場北館3階大会議室
4. 議題
(1) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション等
① くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾）
② Market Kumatori（オリナスジカン）
(2) 委員会判定会議（非公開）
5. 公開・非公開の別 一部非公開
【一部非公開の理由】 委員会判定会議については、提案事業の採択・不採択の審査の公正かつ適切な意思決定を担保するため、当該情報は審議会等会議公開指針第3条第1号に該当すると判断し、非公開とした。
6. 傍聴者数 1人（一般）、3人（事業所管課）
7. 審議等の概要
(1) 住民提案協働事業制度「団体提案型」の公開プレゼンテーション（1団体）、質疑（1団体）
実施にあたり、審査基準を確認のうえ、審査結果は町に提言を行い、町が事業実施の可否を決定後、後日郵送で通知することを説明した。
その後、委員と提案者による質疑応答を実施した【別添参照】。
(2) 委員会判定会議（非公開）
【審議結果】
上記①～②の「団体提案型」の提案について、採択となった。
8. 会議の情報
名称 協働推進委員会
根拠法令等 協働推進委員会規則
設置期間 平成22年12月7日～
所掌事項 住民提案協働事業の審査等及び協働のまちづくりの推進に関して町長から意見等を求められた事案に対する協議・検討及びそのほかの協働のまちづくりの推進に関すること
委員数 6人
9. 担当課 企画経営課

令和4年度 第1回協働推進委員会（R4.10.26）

■「団体提案型」公開プレゼンテーション 提案団体に対する委員からの質疑応答概要

□ ① くまとり新規就農塾（熊取町での新規就農希望者のための農業塾） 提案団体：くまとり新規就農塾

【質問】 委員

この事業の対象者は熊取の人か、大阪府内の人か。

【回答】 提案者

対象は熊取町の人か、もしくは熊取町で就農したい人。

よって、近隣市町村の人でも良い。

【質問】 委員

どれくらいの人が集まるという予想・希望をもっているか。

【回答】 提案者

現在は8名が集まっており、うち1名が熊取町の方。

来年度、本格的に募集・指導を行っていくが、人数をできるだけ集めて、そのうち有望な人が一人でも二人でも出てくれればと考えている。

【質問】 委員

対象としている農地が熊取町ということか。

【回答】 提案者

はい。熊取町で新規就農してもらうこと、熊取町の遊休農地を解消することが目的。

【質問】 委員

農業塾では、どのような農作物を作ることを考えているのか。

【回答】 提案者

夏は水ナス、冬は春菊のパターンで作ると収益が上がりやすいと考えている。

半農半Xの人で、週末しか農業ができない人には、かぼちゃやじゃがいもを勧めるなど、それぞれのライフスタイルに合わせて育てる農作物を考えていく。

【質問】 委員

半農半X（兼業農家）の方にはレクリエーション農園の需要もあるが、このレクリエーションとは一線を画し、販売メインということになるのか。

【回答】 提案者

レクリエーションいわゆる家庭菜園よりも規模が大きいものを考えている。

できれば販売につなげたいが、販売せずともYouTubeなどで農業の情報発信をすることにより、

収益を出すやり方があってもいいと考えている。

【質問】 委員

熊取町の田畑の特徴や規模に着目し、兼業を中心に事業を考えているとのことだが、週末だけ農業に従事して生産された作物を流通させることは容易なのか。

【回答】 提案者

このエリアには直売所がたくさんあり、好きな量を販売することができる。

直売所では以前と比べると販売分量が少なくなっている。今後は現役の高齢農家が引退し、農家の需要が高まると考えている。そうなった時に、半農半Xでも売り先を容易に確保できると考えている。

【質問】 委員

事業予算書の中で、講師謝礼として報償費が計上されているが、資料に記載されているような農作物であれば十分指導することができるように思うが、農作物によっては講師を招聘する機会も一定想定しているのか。

【回答】 提案者

自分がノウハウのない農作物に関しては他の農家の方に指導してもらおう。

熊取町に来ていただく場合もあるし、こちらから出向くこともある。

【質問】 委員

この10年を振り返って何か変化を感じるものはあるか。新規就農者の動向はどうか。

【回答】 提案者

・農産物の直売所は増えているが、出荷量は少なくなっているように感じる。また、他自治体の直売所では地場の野菜が減っており、荒れた農地も増えていると感じる。

・新規就農者の動向としては、もともと新規就農を希望する人は少ないので、人数に関して変化はあまりないが、新規就農はしやすくなっているように思う。

・以前は地方へ移住しないと農家になれなかったが、空き農地の増加や地域とのパイプ役を担う農業塾を行っている人が増えてきたことが要因。

・自分のYouTubeチャンネルに登録されている方の年齢を調べると、60%以上が55歳以上の方。もっと若い人たちに農業に関心を持っていただくことが課題。

□ ② Market Kumatori (オリナスジカン)

提案団体：Market Kumatori (オリナスジカン実行委員会)

【質問】 委員

これまで、まだイベントができていない理由は。

【回答】 提案者

・夏頃に開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症の第7波に見舞われたため日程を改め、11月23日に開催することとなった。

- ・10月、11月はイベントが多い季節であるため、イベントへの集客のため、宣伝を頑張らないといけないとメンバーと考えている。
- ・イベントのカラーチラシは4,000部印刷しており、町内幼稚園や保育園には約2,000世帯分を配布する予定。イベントに参加する予定の33店舗でもInstagram等のSNSを使って11月から宣伝をしてもらう予定。

【質問】 委員

イベントの内容や、そこでの特別な企画はあるのか。

【回答】 提案者

- ・珈琲、お菓子、お弁当、雑貨屋等の33店舗が熊取町の煉瓦館に集まり、暮らしをテーマにしたイベントを開催するもの。
- ・家族で楽しめる、水彩画やアクセサリ、木工のワークショップを企画している。また、熊取町図書館に協力してもらい、子どもたちが楽しめる移動図書館による絵本のコーナーと紙芝居のコーナーを設ける。
- ・町の活性化を目的としたお祭りのようなイベントとなっている。
- ・イベントに参加した方が熊取町でお店を持ちたくなるような、一生心に残るような良いイベントにしたいという思いがある。
- ・Instagram等のSNSでイベントを宣伝すると、熊取町に煉瓦館のような素敵な場所があるんだという感想をもらうこともあり、このイベントを通じて熊取町の良い場所が町外の方にも知ってもらえればと考えている。

【質問】 委員

前年度、駐車場の確保について意見があったと思うが。

【回答】 提案者

産業振興課に協力してもらい、煉瓦館のスクエア・歴史公園・商工会前駐車場等、約200台分の駐車スペースを確保している。また、その誘導についても警備員やスタッフと協議しているところである。

【質問】 委員

事業を通じて熊取町をどういう方向に変えていきたいか。

【回答】 提案者

このイベントをきっかけとして、自分たちの子どもが素敵なお店や自然がある熊取町を好きになり、大きくなっても住みたいと思えるような戻ってきたくなくなるような町になればいいなと考えている。自分のことだけであればこのようなイベントの実施は難しいが、町の活性化に少しでも関わり、未来に繋がればいいなという思いでやっている。